

星野学園小学校新聞

星野学園小学校
 埼玉県川越市上寺山 216-1
 〒350-0826 Tel.049(227)5588
 星野学園小学校 Web
 www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/

初めてのナイター

星野学園小学校の一年間は、「冬の学校」で締めくくるとも言える。慣れないスキーに悪戦苦闘しながら、友達と協力しながら自分たちの力で生活をする、まさに一年間のまとめなのである。なかでも四年生は初めて二泊三日になるだけでなく、初めてナイタースキーに挑戦する学年として、いつも以上に緊張する。今号では、そんな四年生にスポットを当てて、冬の学校の魅力に迫りたい。(本松)



待ちに待ったナイター、スタート!!!

星野学園小学校では、初めて冬の学校で、全学年が冬の学校のナイタースキーに参加するが、ナイターは挑む四年生の様子をお伝えしたい。ナイターは二日目の夕食後に行われた。夕食時に、ナイタースキーの参加者を募った。事前にとったアンケートと同じく、六十一人中五十人が参加希望、二人が不参加であった。しかし、夕



昼より雪質がかたくなり、滑りやすい。

夕食を食べっていると、一人が教員のテーブルにやって来て、やはり参加したいと言った。夕食会場に拍手がわき起こった。その子は、少しはにかみながら笑っていた。夕食が終わると、ナイタースキーまでの休憩時間、ある部屋から、一生懸命に友だちを説得している声が聞こえてきた。「とりあえず一回だけ行ってみようよ。」もし辛かったら、来年はやめればいいじゃん。一緒に

に行こうよ。」しばらくすると、その部屋のドアが開き、一人の子が出てきてこう言った。「先生、やっぱりナイター参加します。」結果四年生六十人全員が参加となっていて、照明に照らされたグレンデだけがオレンジ色に輝いていた。昼よりも寒く、空気が澄んでいるように感じた。五十分の実習を終わらせ、ホテルに子どもたちが戻ってきた。友だちに説得され、悩みに悩んで参加した子が、戻ってきたときには、はつらつとした笑顔で、「楽しかった。来年も、再来年も絶対行きたい。」と言っていたのが印象的だった。ナイタースキーでしか体験できない、景色や空気、滑り心地を存分に味わえたようだった。(杉谷)

快晴×3

二〇一六年二月四日(木)〜六日(土)、星野学園小学校の四年生は九回目の冬の学校を迎えた。苗場スキー場の天気はなんと三日間快晴。現地のインストラクターさんやホテルの方々もとても驚いていた。子ども達はそんな素晴らしい天候に恵まれ、スキーの実習を楽しみ、実習の合間には苗場の自然についても学ぶことができた。グレンデはもちろん、多くの場面でお互いが思いやりの心を持って協力し合い、行動する姿がとても印象的であった。本校では、「学年に応じた



快晴で、リフトもとても気持ち良かったです。

では、「学年に応じた自立し、行動した結果である。冬の学校で培ったたくさんの経験は間違いなく子ども達の人生の糧になるであろう。青く澄み渡る空、白く輝くグレンデ、子ども達の笑顔。苗場の地でできた多くの思い出を胸に、今後の学校生活を大切に過ごしてほしい。(土屋)



中級グレンデも頑張りました。

三時間目にもなると、子どもたちはそれぞれ、「今日の給食は何だろう。」先生!今日はエビフライが出るよ!」子どもたちは、給食が大好きだ。星野学園小学校では、一年生のうちはランチルームに集まり、食事のマナーを学びながら学年みんなで食べる。箸の持ち方、食器の置き方など、学校以外の場面でも必要となるマナーを日々指導している。入学当初は、配膳や食器の片づけに時間がかかり、こぼしてしまうこともしばしばあった。しかし今では、食べこぼしがあっても、教員の手を借りずに、きちんとティッシュに包んで片づけることができるようになった。二年生からは、各教室で給食をいただく。四時間目は終わると、給食当番を身に付け、配膳を始め、食缶の食材の量を見極め、一人分をどれくらい分量で配膳するか考

給食情報

えらるのも勉強のうちだ。学年が上がるにつれて、配膳がスムーズに行えるようになり、六年生ともなれば、教員が手を出す隙も無い。私の担任する三年生のクラスでは、毎日缶を空にしている。男の子も女の子も、一生懸命に食べ、競うようにしておかわりをす



3学期には、異学年交流も!



協力をして配膳します。(海野)

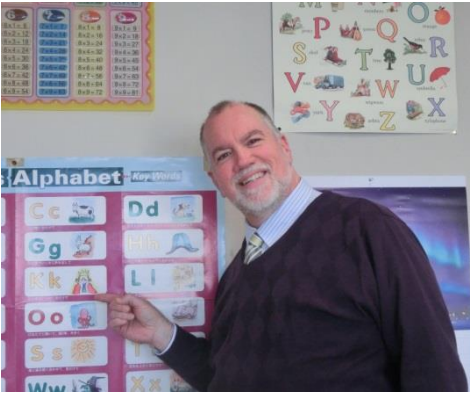
一年生の成長

「トイレに行ってもいいですか。」と聞きに来る。こんな当たり前のようなことが、入学したての頃は言えない子もいた。先生が質問をすると固まり、全く会話ができなくなる子、先生との会話に緊張して泣き出し、また後になつたりと、そんな子ども達も三学期を迎え、もうすぐ二年生へと進級する。

一学期は、休み時間になると先生の周りに集まり、一斉に自分

星小の英語

星野学園小学校のアメリカ人英語教員、ジョン・パットン先生。パットン先生は小学生と中校生の授業を受け持っている。そ



いつも明るいパットン先生!

八九年に來日し、現在まで英語を教えている。二〇一六年で二七年の教員人生になる。これからの時代、英語を学ぶことは必修と言っても過言ではないだろう

の話を始めていた。「昨日、お買い物に行きました。」や「この遊び知ってますか。」「さつき転んでしまいました。」等、一生懸命に話をしている。子ども達も今では、お友達が話し終わるのを待つことができたり、今話さないといけない話題でなければ、また後にしたりと、いったことができようになった。そんな様子を見ると子ども達の成長を感じる。

一年生も残り二ヶ月を切った。進級するに彼の英語の授業を楽しみにしている子どもはとても多い。

アメリカテキサス州生まれ、三人の兄弟に囲まれて育ち、少年時代はいわゆる普通の子どもだったという。一九八九年に來日し、現在まで英語を教えている。二〇一六年で二七年の教員人生になる。これからの時代、英語を学ぶことは必修と言っても過言ではないだろう



辞書引きが早くできるようになった。

星小の教科指導

第七回「書写」

星野学園小学校では、三年生から書道専門教員による書写の授業を行っている。本学園の渡邊朋子教諭は、小学生から高校生までの書



みんな集中して書の世界へ……

道専攻のある大学へ進学するものも多い。このような実績に裏付けされた渡邊教諭の書写指導は、明快の目の前で筆をふるい、課題となる筆使いの的確に指導する。黒板には字形の整え方やポイントが分かりやすく提示され、その時間の課題が明確になる。初めて用具を扱は、準備や片づけだけでも時間がかかるものだ。しかし、「初めて」は子どもの力を引き出すチャンス。筆の成り立ち、墨の特徴など、初めてだから興味津々。気持ちのよい毛の手触りや、心地よい墨の香りを五感で感じる。平仮名の学習にお



自信を持って書けるようになりました。

は、三年生から書道専門教員による書写の授業を行っている。本学園の渡邊朋子教諭は、小学生から高校生までの書道専攻のある大学へ進学するものも多い。このような実績に裏付けされた渡邊教諭の書写指導は、明快の目の前で筆をふるい、課題となる筆使いの的確に指導する。黒板には字形の整え方やポイントが分かりやすく提示され、その時間の課題が明確になる。初めて用具を扱は、準備や片づけだけでも時間がかかるものだ。しかし、「初めて」は子どもの力を引き出すチャンス。筆の成り立ち、墨の特徴など、初めてだから興味津々。気持ちのよい毛の手触りや、心地よい墨の香りを五感で感じる。平仮名の学習にお



墨の香りを体験!

が第一の目的であるが、用具の扱いを通して、用具を長く大事に使うことの大切さを学ぶとともに、手書き文字の温かみ、日本文化としての書道文化をも実感してほしい。

(海野)

星野カップ開幕

今年度も、寒風吹きすさぶ凍てつく一月に、一年間で最も熱い大会が開幕した。もはや星小の風物詩ともなった「星野カップ」である。多くのクラスがこの大会の優勝を目指して、一学期から練習に励んでいる。

通算四回目を迎える本大会であるが、大会レギュレーションに大幅な変更が加えられた。試合水準の向上を狙い、予選リーグの大幅改変に着手したのである。高学年参加の星野チャンピオンズリーグ、中学年参加の星野リーグ、低学年参加の星野チャレンジャーリーグの三つに分け、その後、プレーオフ、二十一世紀杯争奪戦を行う。最終的に、八クラスが決勝トーナメントで雌雄を決する。

二月十五日現在、予選リーグ全行程が終了した。当然、星野チャンピオンズリーグ首位が優勝候補となるのだが、波乱尽くしの星野カップ、一筋縄

ではないかない。首位になると思われていた、前回大会優勝クラスを率いた担任を擁する六年A組が、前半戦で二連敗を喫し、予選二位に終わった。その六年A組に勝ち、首位であるのは、堅守速攻を信条とする六年C組である。勢いそのままに大会優勝できるかどうか、注目を集めることとなった。

一年生が二年生に勝つたり、五年生が個人技で六年生を翻弄したりと、学年の枠に囚われずに、皆がサッカーを楽しんでいる。プレーオフ以降は、星野カップ恒例の学年差ハンデが適用されるので、三・四年生が優勝ということも十分にあり得る。今日も星野ドームの熱戦から目を離すことができない!

(本松)



優勝目指して一致団結!!